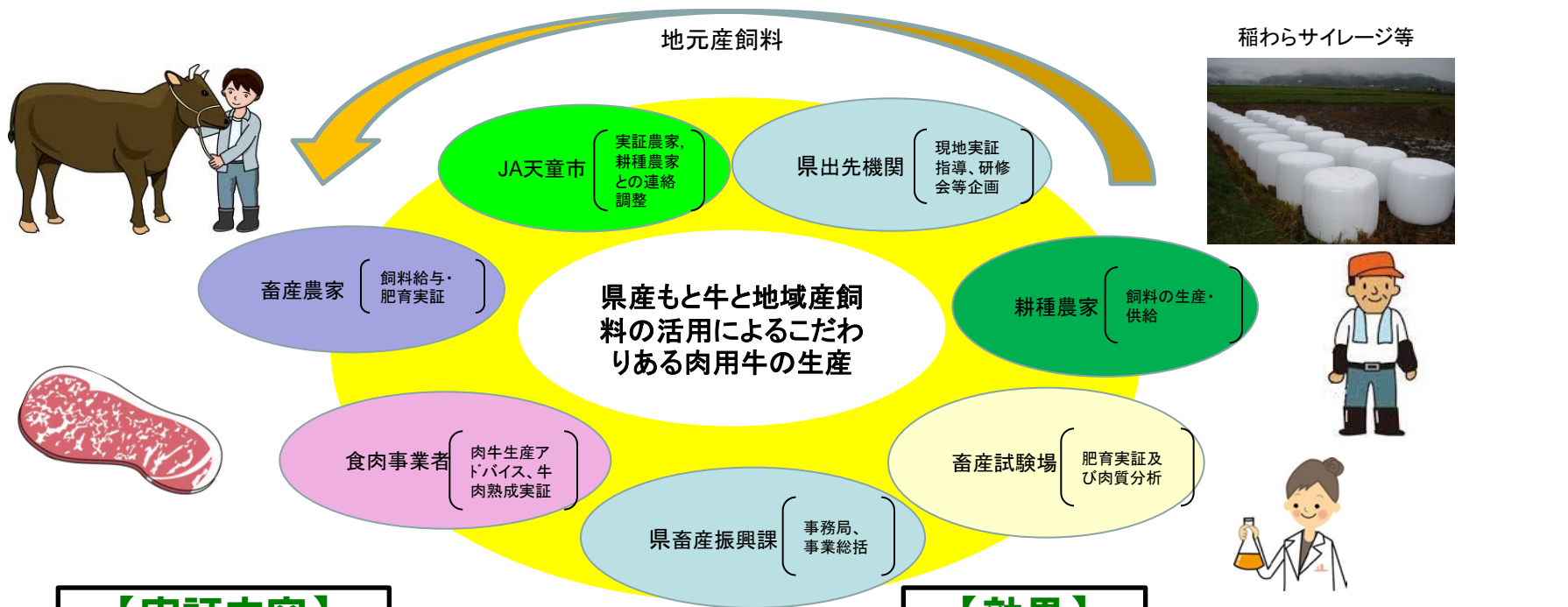


地域の耕畜関係者が連携した畜産クラスター事例⑤ 山形県

未来ある肉用牛生産協議会

肥育仕上げ期の給与飼料を県産を中心とした100%国産飼料とする特徴ある飼養管理と牛肉の熟成技術を組み合わせ、牛肉の差別化と飼料コストの低減を実現



【実証内容】

○県産もと牛の肥育仕上げ期に、県産を中心に100%国産飼料を給与し、発育や肉質、食味等への影響を調査・分析、また生産された牛肉の熟成技術を実証その結果を踏まえ、他産地との差別化を推進

【効果】

(肥育農家の効果)

①飼料価格の低減:

肥育仕上げ期の飼料をすべて国産にすることによる飼料費の低減

②飼料自給率の向上:

肥育仕上げ期に100%国産飼料を給与することによる飼料自給率の向上 15% → 25%

地域全体で、5百万円の収益増
【地域の収益性向上】

○肥育仕上げ期100%国産飼料給与
200頭 × (飼料費低減2.6万円/頭)
= 520万円